

まんのう町教育委員会だより

爽風

そうふう

令和3年〔2021〕

4月1日発行

Vol.24

Contents

P.2-7 特集
ウィズコロナの修学旅行

P.8-9 園・学校ウォッチング
高篠小学校・長炭こども園

P.10 シリーズ「声」

P.11 ホットニュース

子どもの健やかな成長を願って



大きな大根!! うんとこしょ

長炭こども園にて
(9ページに関連記事)

旅行を終えて

～引率者の感想～

感染拡大が進む中で、引率者として非常に神経をすり減らした旅行でしたが、子どもたちは自覚して感染予防を心がけ、節度ある行動ができていました。

バスや見学先、ホテルでは、感染予防対策を万全にしてくれていて、ありがたかったです。

例年とは違う旅行地となりましたが、その土地のよさや文化を知ることができ、貴重な学びと体験の場になりました。

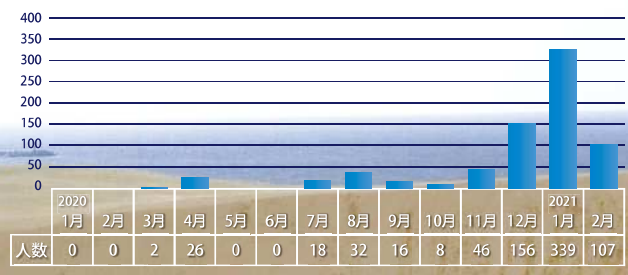
県内の旅行は、移動時間が少ない分、行程が充実し、香川県のよさを見直したり新たな発見をしたりして、郷土への理解が深まりました。

保護者の方たちが、子どもの参加に理解を示してくださり、実施に向けて力強い後押しとなりました。

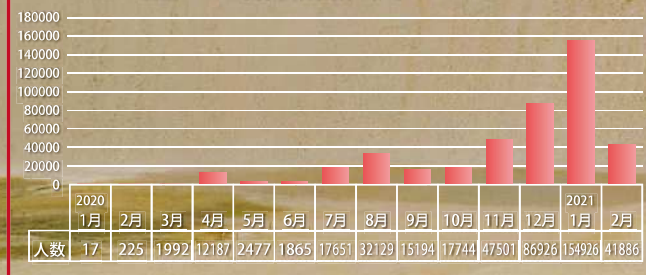
修学旅行が当たり前ではない状況の中、子どもたちはいつも以上に感謝の気持ちを持ちながら臨んでいたように思います。

ウィズコロナの修学旅行

新型コロナ月別感染者数の推移（香川県）



新型コロナ月別感染者数の推移（全国）



（『NHK 特設サイト新型コロナウイルス』
2021.2.28 現在のデータを基に作成）

令和2年度は、新型コロナウイルスの流行により学校行事が次々と中止になりましたが、修学旅行については、簡単に結論を出すことができませんでした。修学旅行は、子どもたちにとって何ものにも代えがたい、特別な思い出となるものだからです。

10月2日、文部科学省は、教育的意義や児童生徒の心情などを考慮して、「近距離への旅行とする」「日程を短縮するなどの変更を加える」などの工夫をし、感染予防対策を徹底したうえで、修学旅行をできるだけ実施するよう求める通知を出しました。

まんのう町では、年度当初、中学校は4月、小学校のほとんどが9月に修学旅行を予定していました。しかし、4月の第1波、8月の第2波により延期せざるを得ず、実施の見通しが立たないまま2学期を迎えました。

刻々と変わる状況の中で実施を決定できたのは、感染動向を見守り実施の可否を検討中だった9～10月の感染者数が、県内は減少傾向にあり、全国的にも比較的落ち着いていたことにあります。寒くなると第3派がやって来る可能性が大きいことから、各校で可能な限り早い時期を模索し、11～12月の実施となりました。

結局、小学校は例年の奈良・京都から中国地方や県内に行き先を変更、中学校は例年の沖縄をあきらめて北九州方面へ、日程も一日短縮しての実施となりました。

※ 日々変化する感染状況に合わせて、旅行日や目的地を複数回変更した学校もあります。また、密を避けるためバスの台数を増やして一人2座席にするなど、安心・安全な修学旅行にするための対策を講じました。これにより発生したホテル等のキャンセル料や追加バスの借り上げ料については、町が負担しました。

広大な鳥取砂丘を歩く満濃南小の子どもたち

わたしの修学旅行

教育長 三原 一夫

「行くべきか、行かざるべきか。」これは悩んだ修学旅行は、初めてである。「コロナウイルスさえなかったら」と目に見えないウイルスを恨んだ。しかし学校の工夫で、時期や目的地、さらに、感染対策を完璧にして実施した。そのおかげで成功裡に終えることができた。本当によかったと安堵している。

ところで、4月1日に発行される広報誌「爽風」の特集は、「ウィズコロナの修学旅行」というタイトルになっており、編集主任のT指導主事より「昔の修学旅行について書いてくれませんか。思い出範囲でいいですから」という依頼があった。「昔の修学旅行・思い出範囲でいいから」という2語が気になった。本当に「わたしの修学旅行」を思い出して書くことができるのだろうか？ ところが、さあ。不思議なことに昨日のことのように鮮明に憶えているのである。

小学校6年の秋、友達との初めての旅は、高知であった。早朝、琴平駅（JR）への集合である。父親の運転する自転車でまたがって、背中にはリュックサックを背負っていた。家から駅までは、4キロの道のりである。子どもだけで歩いて駅に向かう友達も見かけた。あの琴平駅が新装成った今の東京駅のように大きく立派に輝いていた記憶がある。高知への修学旅行の定番である龍河洞や魚市場、そして、セメント工場の見学をした記憶がある。小さな子どもにとつて、あのマグロの大きな記憶や龍河洞の神秘的な空間は、今も脳裏の奥深いところに沈殿している。

余談になるが、デジタル化の現代社会ではあるが、バーチャルではなく「本物にふれる」ことは、小中学校教育の「本質であり原点」である、と考えている。修学旅行の意味もそこにあると思う。

一泊二日の旅はあつという間に終わって、琴平駅に帰ってきた。駅から自宅まで、4キロの道程を友達と歩いて帰った（今ならどうであろうか、と考えてもみた）。疲れた子どもの足で、よく頑張ったという思いがあるが、みんながそうだったのだ、特に気に掛けることはなかった。

一生の楽しい思い出である修学旅行。切磋琢磨して生活を共にしてきた友達と集団で旅をすることは50年、60年経っても瑞々しく思い出される。人間の生、の人格形成にこの旅も位置づいていることは間違いない。「勉強が出来たらい」だけでは、人生は乗り越えていけないのではない。自分から苦労して、耐えて生きていくという側面も大切になるはずだ、と思う。



旅行前 安心・安全な旅行にするために

旅行前

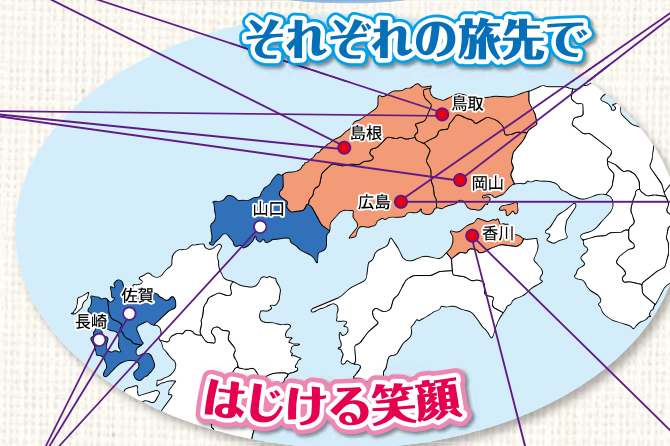
- 出発前2週間、本人と同居家族の健康観察
- 見学先やホテルの感染予防対策の状況を確認
- 児童・生徒に、感染を予防する行動について指導

旅行後

- 帰着後2週間、本人と同居家族の健康観察

旅行中

- 定期的に児童・生徒の検温と体調の確認
- バスでは
 - ・乗降の都度、手指を消毒
 - ・間隔をあけて座る
 - ・レクリエーションはやめ、静かに過ごす
- 見学先では
 - ・施設出入り口での手指の消毒
 - ・一般客との接触をできるだけ避ける
- ホテルでは
 - ・ゆったりとした部屋割り
 - ・前向きや斜め向かいで、間隔をあけて食事
 - ・食事・入浴・睡眠時以外、マスクを着用





堀川巡り(島根)



鳥取砂丘(鳥取)



オリブ公園(香川)



松江城(島根)



瑠璃光寺(山口)

名所・旧跡を巡る



出島(長崎)

バスの中から長崎を見ると、とても坂が多くてびっくりしました。
原爆資料館では戦争の恐ろしさを、より感じる事ができました。背中をよけてしている男の子や顔をよけている男の子の写真を見て、原爆爆弾の、人の影響がよく分かりました。
平和公園では、像の手や表情の意味が分かりました。右手は原子爆弾、左手は平和を表していて、像が立ち上がろうとしているのは、復興を表していることが分かりました。
被爆体験講話を聞くことで、原爆の被害をくわしく知ることができました。今日聞いた話を、しっかり周りの人に伝えたいと思います。
満濃中学校 上村 真生

私が一番思い出に残ったところは、オリブ公園です。魔女の宅急便のほうきに乗って写真を撮ったり、いろいろな面白い物をしてたりしたことが思い出に残りました。もう一度行つてみたいところは、ドルフィンセンターです。えさやり体験だけだったけど、イルカと一緒に泳ぐのもしてみたいと思いました。
旅館では、夜ご飯や朝ご飯が、こつて、とてもおいしかったです。特に、オリブマチがおいしかったです。部屋でみんななどいろいろな話をしたり、いっしょに寝たりしたのも楽しかったです。
長嶺小学校 眞鍋 葵衣

最初に行った鳥取砂丘は、どこまでも広くてびっくりしました。頂上まで登ったとき、とても疲れましたが、迫力のある日本海の波を見ることができました。
また、松江城の堀川巡りをしました。船からは、アオサギやカモ、ハクチョウなどを見ることができました。また、船頭さんが、松江では「ありがとう」を「だんだん」と言うって教えてくれました。とても楽しかったです。
この修学旅行は、六年間で最高の思い出になりました。
四条小学校 矢野 智暉

遊ぶ



ニューオトワワールド(香川)



みろくの里(広島)



赤山高原ジョイフルパーク(岡山)



和三盆づくり(香川)



お好み焼き(広島)



えさやり(香川)

体験する



ペーロン(長崎)

ペーロン
長崎地方で行われる舟競争の伝統行事。中国の白龍(バイロン)が語源と言われている。

平和記念資料館(広島)



平和公園(広島)

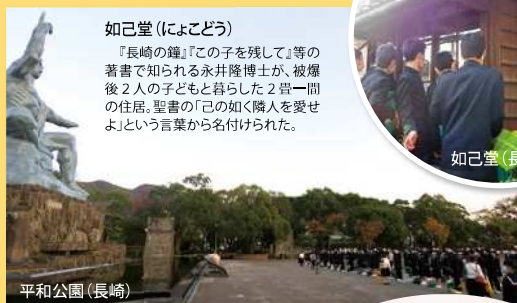
学ぶ

如己堂(によこどう)

『長崎の鐘』『この子を残して』等の著書で知られる永井隆博士が、被爆後2人の子供と暮らした2階一間の住居。聖書の「己の如く隣人を愛せよ」という言葉から名付けられた。



如己堂(長崎)



平和公園(長崎)



水産出前授業(香川)



三菱自動車水鳥工場(岡山)



被爆体験講話(長崎)

授業では、まず自分で考え、表現することを大切にしていきます。

そのために、授業の始めには「さあ、みなさん、今日もまた『おかしな』一冊をだそう。『おかしいな』などって、考えてみたくなる課題を設定しています。そして、気づいたことや考えたことを分かりやすく表現できるように、基本的なノートの書き方を全校で統一しています。

A close-up photograph of a person's hands writing on a lined notebook page. The person is wearing a blue long-sleeved shirt. The notebook has yellowed pages with horizontal blue lines. The handwriting is in black ink.

また、子どもとのコミュニケーションを高めるためのプリントも配布しています。タフなリットを使って考えを表したり、写真や動画を撮ったりすることもあります。

その後、子どもたちは、友だちと交流することで、互いの考えを確認したり質問したりして、学びを広げ、深めていきます。



タブレットでプログラミング

考えを手作りカードにまとめる

11月の学習発表会では、どの学年も、学んだことや、体験したことをもとに、子どもたちの意見を取り入れたオリジナル脚本を作りました。ストーリーや台詞だけでなく、動作や小道具、プレゼンの画面にも工夫が見られました。

友だちと協力しながら取り組み、成功したことで子どもたちは、達成感や自己有用感を味わいました。

1年生みんなで作ったのがよしソフダ

めざせ! よりよい4年生

表現する力を高めるためには、語彙数を増やして、美しい言葉に装扮させることが大切だと考えています。そこで、音読を日常的に取り入れ、練習の成果を管理職が確認するミッション活動を行っています。

ミッションでは、現代だけでなく古文にも挑戦させ、全ての子どもが暗唱できるまで繰り返し聞かれています。

合格したらシールを渡すことで、自信がもてるようにしています。

部会全で毎日音読

朝の会で毎日音読

集会の話をメモする

全校集会や放送朝会などで、先生の話を聞きながらメモした後、感想や考えを書いていきます。

学年が上がるにつれて、キーワードだけでなく、要点をまとめたり、細かい内容もメモしたりできるようになっていきます。



これからも、表現する力を高めることで、学力を向上させるだけでなく、子どもたちが温かい人間関係を築き、仲間とともに伸びていけるように努めたいと思います。

2歳児の保育室前のプランターに、溢れんばかりに大きく立派に育った、いや育ちすぎた白菜。「どうしようかなあ」と葉っぱを見ていると、一人二人：子どもたちがやってきて、「ほ

見て! 大きい
したり、虫食い穴から覗いたり。
イメージを膨らませて葉っぱでいっ
ぱい遊んだ後は、もちろん、
「食べた〜い!」。

見て!大きいよ

見学だけ……そう思ってたかけたさつま芋畑。毎年、仲善教育会の方にお世話になっています。「ちよっとだけ、さしていきな」と、子どもたちにつるさしができるように準備してくださっていました。

秋には、4・5歳児の子どもたちだけでなく、応援部隊で参加した3歳児も一緒に、芋ほり体験できました。

「やっつた〜！超でかい芋や」
「これ、でぶっちよ〜！」
弾ける心が、いっぱい
伝わってきます。

コスモス



たことが、満足
そんな笑顔から
伝わってきました。

A person is holding a large, vibrant green leaf, possibly a piece of lettuce or a similar vegetable, in front of their face. The person is wearing a light-colored shirt and a dark skirt. The background is slightly blurred, showing other people and what appears to be an outdoor or semi-outdoor setting. The text is written vertically to the left of the image.

だ〜れだ?!

心豊かな暮らしを
紡いで・・・
長炭こども園

が癒されました。
地域の方に見守られて
いる温かさが、満開
のコスモスの花から伝
わってくるような気が
しました。

私たち大人が子どもとの可能性を心から信頼するとき、子どもたちはどんな状況であつとも生き生きと目を輝かせて、自分の時間、を生き始めることを、子どもたちから改めて気づかされました。

自分の生き方の土台を創る子ども時代だから、夢中になって我を忘れるほどご自分のやりたいことに没頭する豊かな体験を、これからの生活の中でもずっと大切にしていきたいと思ひます。

春の出会い

たくさんの木々が子どもたちの生活を彩る園庭。春には桜が咲きほります。春風と散るにも花びらが、まさしく吹雪のように舞い散る様を見て、

「つわあー、雪みたいー」

子どもたちは心動かされ、思うまま、感じたまんまの歓声を上げます。この季節ならではの自然との触れ合いや出会い…その感動を子どもたちとともに味わえる幸せを感じていま。

そしてもう一つ、子どもたちの中で代々密やかに引き継がれている、ダンス探し。

フランターや植木鉢をするすと引つ張り出し、しゃがみ込んでいるその後姿。きつと、ダンスコマをじっとと見ているのじょう。どんな表情をしているのか、前に回って見てみたいけれど、目を合わせてしまうと、その子の無心さを摘んでしまふぞい、ぞい、ぞい、つ、つ、つ、後姿を眺めるじょう。

前から見ることはできない。横から覗くこともできないけれど、後ろ姿から確かに感じられる、子どもたちの心の動き。保育者が「あー」と思った子どもの姿から、それが「その子にとってどんな意味があるのか」ということに、思いを巡らせていきます。

そんな時、「子どもに至る」という本の中で出会った、倉橋憲三先生の「後ろ向き」の一文を思い出しました。

——わたしが子どもをじっと見るのは、その後ろ向きだ。…（中略）…じっとうしろから眺めさせて貰っておこう。そこでは、子どもの心の動きに、ただ同じ方向にのみ追従していることもできるのであるし、

なる書房)より

令和3年度に向けて 教育のさらなる充実を!!



園長教育懇談会 (R2.12.22)

テーマ

次年度の園経営について
～これまでの成果と課題を踏まえて～

毎年、教育研究所主催により、園長・校長を対象に教育懇談会を実施しています。園長・校長、教育委員、事務局職員が参加し、町内の教育・保育のさらなる充実に向けて、ざっくばらんに語り合います。

園長・校長は、互いに経営の悩みや課題を出し合い、他の園や学校の取り組みから、参考になる点を取り入れていきます。また、教育委員から率直な意見が聞ける場としても、たいへん貴重です。



校長教育懇談会 (R3.1.26)

テーマ

こんな学校に
～次年度の学校経営を構想する～

総合教育会議 (R3.1.18)



平成27年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正されたことにより、教育委員長と教育長が一本化され、教育委員会制度が新しくなりました。これに伴い新設されたのが「総合教育会議」です。

これは、首長と教育委員会が教育施策等について協議・調整する場として設けられたもので、両者が方向性を共有して執行にあたることを期待されています。

大切に伝える 「地域で受け継がれてきたもの」 (R2.11.6)



佐文綾子踊保存会会長白川さんと教育委員会生涯学習課文化財室の加納さんが仲南小学校を訪問し、4年生に綾子踊についての授業を行いました。

「地域で受け継がれてきたもの」は、小学校4年生の社会科で学習する単元の一つです。



第10回 食の専門家 栄養教諭

栄養教諭は、平成17年度に新しく設けられた職です。それまで学校栄養士が行ってきた給食の管理・運営に加え、児童生徒への食に関する指導を担う教員です。食生活が多様化する中、「知育・徳育・体育の基礎となるべきもの」と位置づけられる食育の重要性は、年々高まるばかりです。

今回は、そんな重要な役割を担う2名の栄養教諭の声をお届けします。

栄養教諭が給食を通して伝えたいこと

栄養教諭という仕事が生まれて17年目になります。「栄養教諭ってどんなことをしているの?」とよく聞かれるので、まずは栄養教諭についてお話しします。

栄養教諭は、「給食場の栄養士」であると同時に、「子どもたちへの指導も行う「教員」です。主な仕事は2つで、「栄養の指導」と「給食の管理」です。

「栄養の指導」は、給食時間に話をしたり、給食委員会の子もたちが読む放送原稿を考えたりしています。時には、担任の先生と一緒に授業することもあります。また、肥満の指導や血液検査後の指導、アレルギーなどの個別相談も行っています。

「給食の管理」は、食材を納入する業者を決めて注文を行ったり、毎日の給食が安全に提供できるように調理員さんに話をしたり、授業や行事と関連するよう献立を立てたりします。また、給食の残った量を調査して、子どもたちの栄養がきちんと足りているか計算したり、「食育だより」や「給食だより」などのおたよりを作ったりもしています。

子どもたちは、みんな給食に関心があり、「先生が献立だよりかな。この献立出してー」などと、たくさん話しかけてくれます。

毎日、私が考えた献立を、まんの町内約2千人の子もたちが食べてくれるという反面、ほとんど給食場について会うことが少ないので、子どもたちや先生方、保護者の方々に、まだまだ知られていない、謎の多い職業になっています。もっと、もっと、努力したいな」と思っています。

子どもたちは、小中学校を卒業すると給食は終わりますが、食へることは続きます。高校、大学、社会人と、徐々に自分で選択して食へる機会が増えていきます。その上、親になれば、食事を準備して家族の健康を守らなければならぬ立場になっていきます。給食の献立が、子どもたちの未来の健康につながるようにこれからも思い、仕事をしています。

満濃中学校 栄養教諭 辻村 方弘
(満南小・四条小・高篠小を兼務)



自慢の給食でありたい

新しい年度です。新しい環境で給食を食べているお子様の様子はどうですか?

給食には、好きなものばかりではなく、初めて食べるもの、苦手なものも出ます。私も小学生の頃は、給食で困った一人だったので、残って食べている人を見かけると、「がんばれ!」と心の底から応援しています。なんでも食べられる人には、憧れに近い尊敬の眼差しを向けています。

子どもたちの頑張りには、目を見張るものがあります。一口しか食べられなかったのに半分も食べられるようになった、いつも残って食べていた人がみんなと一緒に「ちやうどさまでした」ができるようになったりすると、感動します。本人の頑張りもあるでしょうが、先生方はじめ、ご家庭でも温かい声かけをしてくださっているからその成長もあるのだと思うています。

栄養教諭は、みなさんと直接話をする機会が限られています。その分、給食の献立を通して思いを伝えられたいと思っています。この食材について知ってほしいな、この郷土料理の味を覚えてほしいな、そんな思いを献立に乗せています。

思いを伝える手段は、「給食だより」や「食育だより」です。スペースや文字数という制限と格闘しながら、「こつこつと楽しく知ってもらえるだろ」と、日々考えています。子どもたちが自分の夢を叶えられる健康な体、そして季節の移り変わりを食で感じられる感性、それらを育てることをいつも頭において、美味しい給食をめざして調理員さんと一緒に頑張っています。

給食を食べているみなさん、「今日の給食、〇〇だったよー」この一言がとっても嬉しいので、調理員さんと栄養教諭に出会ったら、ぜひ感想を教えてくださいな。

仲南小学校 栄養教諭 竹内 麻奈未
(琴南小・長成小を兼務)



タブレットを使って考える
高篠小5年生
(8ページに関連記事)



この後、台風はどう動く？

編集後記

たんぽぽは、じょうぶな草です。はがふまれたりつみとられたりしても、また生えてきます。なが生きていて、あたらしいはをつくり出すのです。

このような書き出しで始まる『たんぽぽ』は、町内の小学2年生が使った国語の教科書(東京書籍)に掲載されています。四百字詰め原稿用紙にして一枚半程度の短い文章ですが、たんぽぽの根や花の秘密が、実に分かりやすくまとめられているのです。

中でも、「メートル以上のものもある」というその「根」には驚かされます。添えられた挿絵には、地上に出ている部分の十倍ほどもあると思われる、太くて長い、そしてたくさん枝分かれして地中に深く入り込んだ根の様子が描かれています。

この根が、見えないところでしっかりとたんぽぽを支えているからこそ、たんぽぽは踏まれても摘み取られても、地面に張り付くようにして寒い冬を耐え、春にまた花を咲かせることができるのでしょう。

人間もまた、同じではないでしょうか。長い人生の中では誰しも、苦境に立たされ、自分という存在を揺さぶられるような経験をします。そんなとき、太く強い根を持った人は、それに耐え、それを乗り越え、生き抜いていくことができるでしょう。たくさん枝分かれした根からさまざまな養分を吸収して、自分を豊かに太らせることもできるのです。

この太くて強い根が作られるのは、まさに幼児期だと言われています。その根をぐんぐん伸ばし枝を広げていくのが児童期。そして思春期以降、危機に出会った時に、根はその太さや強さを試されることになるのです。子ども時代に自分という存在をまるごと受け入れてもらい、たくさん愛された経験が、太く強い根を作るのです。そしてこれは、こども園や学校の先生には代わることもできない、家庭の大切な役割です。

今年の春もたんぽぽは、コロナに負けず寒い冬を乗り越え、野原一面にかわいい花を咲かせました。子どもたちも、去年よりまた少し太く、強くなった根で、新しい春を迎えたことでしょう。

特集

次号(6月1日発行)予告

子どものネット依存を考える

※ICTとうまくつき合える子どもに!



図・学校ウォッチング

・満濃南小学校
・高篠こども園

令和3年【2021】4月1日発行

Vol.24

まんのう町教育委員会より

爽風

発行責任者: まんのう町教育委員会

〒769-0313 香川県仲多度郡まんのう町生間415番地1

TEL (0877) 89-7100 FAX (0877) 89-8100